

令和元年度第1回江別市経済審議会会議録（要旨）

日 時	令和元年8月6日（火） 14:00～16:20
場 所	江別市民会館（37号室）
出席者（14）名	会 長/井上誠司 副会長/平澤亨輔 委 員/小走安則、和田美和、神保順子、坂上伸也、中野亮二、大鹿琢、岸本佳廣、松浦智幸、杉野邦彦、池田太郎、中尾敏彦、石澤真希
事務局（14）名	江別市長、経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、農業振興課長、企業立地課長、総合特区推進担当参事、商工労働課主査（1名）、ほか4名
欠席者（3）名	委員 /中津智史、皆川和志、岡村恵子
議 事	報告事項 （1） 経済部各課主要施策概要等について

会議録（要旨）

商工労働課長	開会のことば
江別市長	委嘱状交付、挨拶
商工労働課長	会議成立報告
経済部長	経済部職員紹介（課長職以上挨拶）
商工労働課長	会長・副会長の互選についてですが、各委員の皆様から推薦がございましたら、発言願います。
中野委員	会長に井上委員、副会長に平澤委員を推薦いたします。
商工労働課長	ただいま、中野委員より会長に井上委員、副会長に平澤委員の推薦がありましたが、いかがでしょうか。
一同	異議なし
会長及び副会長	会長・副会長席に移動後、順次挨拶
会長	初めに、次第の5、報告事項の（1）、「経済部各課主要施策概要等」について事務局より説明願います。
商工労働課長	新たに委嘱を受けた委員もいることから、初めに、「経済審議会条例等」及び「経済部の組織機構等」について、説明申し上げる。 ※経済審議会条例及び事務分掌等について説明（資料11～15ページ）
会長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございますか。
一同	なし
会長	「商工労働課の主要事業」につきまして、事務局より説明願います。
商工労働課長	※商工労働課主要事業について説明（資料1～3ページ）
会長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございますか。

中野委員	有給インターンシップ事業について、賃金はどれくらいか、どういった業種の登録企業が多いのか、昨年度の就職に結びついた人数はどれくらいか伺いたい。また、働きたい女性のための就職支援事業について、就職された方の雇用形態についても伺いたい。
商工労働課長	就職の人数については、学生の動向を完全に把握はできていないが、今年度、事業を通して市内企業に2人就職していると聞いている。賃金については、派遣される事業者によって異なり、一律に賃金を設定している訳ではない。業種については、一般的な事務、サービス業、農業など様々である。働きたい女性のための就職支援事業における就職先での雇用形態については、パート採用を希望する参加者が多く、ほとんどの方がパート採用である。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
小走委員	予算は委託している人材派遣会社への委託料が大半であるか。また、インターンシップに参加した学生や受入先企業からアンケート等を取りフィードバックを得ているのか。
商工労働課長	予算については、人材派遣会社への委託料が大半である。また、インターンシップ生や受入先企業からのフィードバックについては、アンケートや聞き取りをして得ている。
小走委員	アンケートを取ったからには、その内容を大学や受入先企業にフィードバックすることが大事である。ぜひフィードバックをしっかりと実施していただきたい。
会長	アンケートのフィードバックは課題の解明、改善に役立つため、ぜひ実施していただきたい。
商工労働課長	アンケートのフィードバックについては然るべく対応させていただく。
神保委員	働きたい女性のための就職支援事業の実績（資料3ページ中段）について、平成27年度から平成30年まで約3～4名の方が就職していない。この方たちは、なぜ2カ月間の研修を受けていながら就職できていないのか。
商工労働課長	基本的には研修に参加されている方の希望に応じて研修先の企業に行っていただいている。その中で、自分の働き方とは合わない部分があり辞退される方もいる。また、ご家庭の事情で最終的に働けなかったという方もいる。
神保委員	育児に関連する事由はなかったか。
商工労働課長	それについては聞いていない。
杉野委員	有給インターンシップについて、企業に派遣する期間は企業によって異なるのか。また、学生に支払われる賃金は派遣先企業が全額負担して支払っているのか。それとも、有給インターンシップ事業の予算の中から補填しているのか。
商工労働課長	各企業での研修期間については人による。短期間の方から、数ヶ月継続する方もいる。企業で研修を受けている期間は、その企業から賃金を支払っている。それ以外の期間は、市から給料を支払っている。

杉野委員	研修生が企業に通勤する際に発生する交通費の負担については、企業側の判断になるのか。それとも、何か規定があるのか。
商工労働課長	各企業の判断で負担していただいている。
会長	有給インターンシップの実績（資料2ページ中段）について、登録学生数が順調に伸びているという状況の中で、新規登録学生数、派遣学生数、KPIの目標値は超えているが、派遣学生数がそれほど伸びていない。派遣割合で見ると、低下傾向にある。この点に関して受け入れ先が少なくなっている、もしくは交通費が補助されず待遇が悪いため行かない等様々なことが想定されるが、派遣学生数割合がそれほど伸びていないのには何か事情があるのか。
商工労働課長	研修に参加している学生にとって、企業の立地場所によっては行きづらい部分もあり、通勤の問題も影響していると考えられる。
会長	インターンシップに参加したいが、できないという学生がいるのは事実か。
商工労働課長	お見込みのとおり。
会長	ぜひ改善を願いたい。 また、商工業活性化事業について、店舗外装等のレンガ装飾への助成の対象は1店舗単位なのか、それとも商店街単位なのか。商店街単位でないと、統一的な装飾は効果が出ない。北海道で例を挙げれば、檜山地方の江差町が明治期の街並みを復元したり、伊達市や美瑛町などは商店街活性化の有名なケースとしてよくとりあげられるが、そういった商店街を単位とすると効果が出てくる。
商工労働課長	建築協定に基づき助成しているため、建築協定を結んでいる野幌商店街を対象に、レンガ装飾への助成をしている。
副会長	野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業におけるコーディネーターとはどのような方なのか。 また、有給インターンシップの広報の仕方について、市内の学生に対して広報する場合、大学を通していいのか、それとも、SNS等を使って学生に直接周知しているのか。
商工労働課長	野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業におけるコーディネーターについては、市内の商工業に関する知見を持った方に委託し、野幌駅の整備や商業施設等の誘致に関するコーディネートに取り組んでいただいている。具体的には、以前商工会議所で働いていた方に委託をしている。 また、有給インターンシップの周知の仕方について、半年に一回、大学で説明会を実施しているほか、学生に対してはソーシャルネットワークを用いた周知も行っている。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
岸本委員	江別の顔づくり事業（街路事業）の終了に伴い、野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業は終了となるのか。また、店舗外装等のレンガ装飾への助成（商工業活性化事業）は、レンガ装飾に限らず、その他の商店街でも、商店街全体のイメージづくり等に対しても使えるのか。

商工労働課長	江別の顔づくり事業（街路事業）の終了に伴い、野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業は一旦終了する予定。また、商工業活性化事業における商店街への支援については、店舗外装等のレンガ装飾への助成は商店街と建築協定を締結すれば可能である。その他にも商店街を活性化するための支援メニューは用意している。例えば、商店街のアーケードやロードヒーティング、融雪槽、買物客用の無料駐車場の整備。また、景観向上を目的としたレンガ等を使用した歩道の舗装・整備、街路灯等の整備。さらに、ポイントカードやエコバックの導入等、商店街の顧客向けサービスを導入する際の経費補助も可能である。
会長	同質コンセプトはレンガのみであり、その他の支援事業については一般的な施設整備や活性化支援が商店街サポート事業の内容になるのか。
商工労働課長	お見込みのとおり。
神保委員	野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業の活動拠点はどこか。
商工労働課長	ベーカリー&ベジフル マチノキ（八丁目プラザのっぼ）の2階を事務所にしてコーディネーターが活動している。
神保委員	その事務所に係る経費に予算を充てているということか。
商工労働課長	お見込みのとおり。
神保委員	この事業もいずれは終了するということでよろしいか。
商工労働課長	確定したわけではないが、一旦終了するかと思う。
神保委員	顔づくり事業（街路事業）が完遂するまでは、そちら（八丁目プラザのっぼ 2階）を活動拠点にするのか。
商工労働課長	顔づくり事業（街路事業）の終了に伴い、この事業が終了するかは、現時点でははっきり申し上げられない。商店街の活性化促進が目的であるため、顔づくり事業の進展が一つの目安になる。
神保委員	このことについて、市民や様々な団体の方に認知されていない。
商工労働課長	市民の方へのPRを含め何ができるかについては、コーディネーターの方と相談させていただく。
小走委員	有給インターンシップにおいて、委託している人材派遣会社に対してはKPIを設定しているのか。
商工労働課長	KPIは国の交付金をいただく事業とするために設定している経緯もあり、事業者（人材派遣会社）に通知している。KPIを目標値として事業を進めている。

会長	多くの助成金を費やし、外部への委託を行っているため、どれだけの成果が市にもたらされているのか、市内大学生がどれだけ江別市に就業しているのか、そういう実績をしっかりと把握し公表するよう検討していただきたい。
会長	続きまして、観光振興課の事業につきまして説明願います。
観光振興課長	※観光振興課主要事業について説明（資料4～5ページ）
会長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございますか。
中野委員	観光入込客数の人数について、各施設でどのように集計しているのか。また、平成30年度に人数が大きく増えている（資料5ページ下段）。この集計の中に平成30年度から新たに加わった対象施設はどこか。また、企画課で実施しているシティプロモートとの関係性について、観光の活動と重複する部分が多いと感じた。活動の取り組み状況について伺いたい。
観光振興課長	集計の仕方については、対象施設に市内、市外、道外の内訳を定期的に報告していただいている。個別の集計方法については、全てを把握している訳ではないが、一定期間アンケートで実態調査をし、その割合を年間に適用したり、個別に高い頻度で集計をとっていると聞いている。また、今年度から入込客数に計上した施設はゆめちからテラス、野菜の駅ふれあいファームしのつ、太田ファームの3施設になる。 最後にシティプロモートとの関係性について、江別市観光振興計画のターゲットが海外などではなく道央圏からの誘客であり、市への交流人口を増やすという意味では、シティプロモート事業と重複する部分も多い。また観光の軸を食と農にしていることもあり、農業振興課の事業と重なる部分もある。連携をとりながら情報共有をし、事業の重複がないように努めてはいるが、似た事業はある。
会長	観光入込客数について単年度の数値だけ示しても意味がない。複数年の数値を並べて動向を示して欲しい。数年間の動向を示すことによって、リピーターの有無を把握できる。集計対象施設の中には、直売に関連する施設が非常に多く、重複した取り組みを実施している施設もある。例えば、農家のかあさん土曜市を開催している河川防災ステーションやEBRI、ゆめちからテラス内にある農協の野菜直売所、野菜の駅ふれあいファームしのつ等。そういった動向を追うことにより、どのように競合しているかが把握でき、競合している施設に対してどのような取り組みを実施すべきか等、課題の解明につながる。ぜひ検討していただきたい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
中尾委員	江別やきもの市について、事業費補助300万円の主な用途は何か。また、やきもの市の経済効果について伺いたい。
観光振興課長	やきもの市における事業費補助300万円の用途について、陶芸家が入るためのテント設営、撤去作業などの内の一部。また、経済効果について、今年度は2日間の入場者数が3万5千人程度と把握しているが、額としての経済効果は把握していない。
会長	経済効果という意味で、来客数は毎年公表しているのか。
観光振興課長	公表している。

会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
副会長	観光振興計画事業の中で、謎解きゲームを実施するとあるが、今年度から実施するのか。内容についても伺いたい。また、日帰り周遊型観光の推進のためのモニターツアー、サイクルツーリズムはどのように実施する予定か。
観光振興課長	謎解きゲームについては、今年度で4回目になる。参加者はEBRIの中にあるGET'Sで受付をして回答用紙を受け取る。そして、市内の観光名所や飲食店に問題が設けられ、低学年のお子様を対象にした初級編から車を使用して進める上級編などのコースを4つ用意している。問題が設置してある場所に行き、問題を解いていく。優待券も渡しているため、場合によってはそれを使ってお金を払い食事をしていただくという内容。年々参加者数は増加傾向にあり、今年は7月21日時点で901人、前年同期比で212人増ということで、かなり好調である。また、今年度のモニターツアーは市内の観光地が点在しているため、テスト的に巡回型のバスを使い、市内の観光スポットを何カ所か巡っていただくものを検討している。サイクルツーリズムに関しては、ラグビーワールドカップに絡め、台湾の方などを招聘して2日間で市内の観光地等を巡ってもらうものを検討している。
副会長	謎解きゲーム参加者901人のうち市外から参加した人数は。
観光振興課長	手元に資料がなく、人数の内訳は承知してない。
会長	サイクルツーリズムに関しては推進すべき。台湾ではサイクルツーリズムが有名で、日本では、しまなみ海道（愛媛県今治市～広島県尾道市）が有名だが、近年、北海道もその対象になってきている。札幌市はインバウンドの方が多いが、サイクルツーリズムで訪れる人はほとんどいない。ただ、札幌市には白石サイクリングロードやじょうてつなどのコースがあり、推進すれば観光客が増える状況にあるが、まだ実施していない。札幌に訪れる方を江別に呼び込むために、江別から先に仕掛け、サイクルツーリズムを推進するのも一つの手であり、インバウンド導入にもつながる。また、サイクルツーリズムがあれば、観光スポット点在に伴う問題がある程度克服できる。サイクリングを楽しみながら市内観光でき、メリットがある。また、マラソン大会やサイクリングは入浴施設と協力して推進している例がある。例えば、大型スーパー銭湯に協力していただき、そこに荷物を置かせてもらう。そこをスタートとゴールに設定して、終わったら入浴して帰っていただく。こうしたサイクルツーリズムを検討するのも地域活性化にとって良い事だと思う。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
小走委員	熊の問題に関してはどこの所管になるのか。また、何か対策はしているのか。観光入込客数でいえば、森林公園は相当落ち込むのではないかと。
観光振興課長	市としての対策は生活環境部、サポートとして危機対策室、経済部としては熊の巡回の応援に行っている。経済部で直接的に何かを判断することはない。観光入込客数については、今年度に関しては若干落ち込むと思う。
副会長	観光入込客数について、最近、森林キャンプ場の入場者数が増え、キャンプなどの外で行う観光も増えている。そういった取り組みも検討してみたいか。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
会長	続きまして、農業振興課の主要事業につきまして説明願います。

農業振興課長	※農業振興課主要事業について説明（資料6ページ）
会長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございますか。
会長	江別産農畜産物ブランディング事業において、黒毛和牛育成支援、小麦品種「きたほなみ」の作付を確保するための助成とあるが、黒毛和牛、きたほなみを江別市内で食べられるような支援策は用意されているのか。あるいはそうしたお店の紹介等はされているのか。
農業振興課長	観光協会が発行している「えべつCollection」の中で、江別産小麦を使った商品やえぞ但馬牛に関して紹介している。市内でハルユタカ等を使用した物を食べられる場所については、市内各所でパンが食べられるほか、マキシド・ルパ（江別市民会館1階レストラン）で小麦麺として食べることが可能である。また、スーパー等ではハルユタカを使ったラーメンなどが販売されている。
会長	兵庫県三田市を訪問した際、三田牛をPRしていることから、三田牛が食べられると期待していたが、駅の周辺や商店街にそのような店が見当たらず、本当に三田牛のPRをしているのかと感じたことがある。江別市においても、えぞ但馬牛をPRしているが、野幌駅周辺や江別駅周辺でえぞ但馬牛が食べられる場所はどこにあるのかという雰囲気を少なからず感じる。パンフレット等で事前に情報収集すれば分かるかもしれないが、不意に訪れて、食べられると思っていたものが食べられないのはがっかりする。その点に関して振興をお願いしたい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はありませんか。
杉野委員	江別産農畜産物ブランディング事業において、小麦品種「きたほなみ」の作付に係る助成をしているが、江別のブランドである「ハルユタカ」に対する助成金は何かないか。
農業振興課長	江別産農畜産物ブランディング事業について、「ハルユタカ」単体ではなかなか製品に結びつかないが、今後「きたほなみ」とブレンドする中でパン、小麦、麵製品などが作りやすくなるため、「きたほなみ」の作付に対する助成をしている。国からの交付金で若干強力粉に対する補助が国の場合は手厚く、その差額をこのブランディング事業で補助することによって「きたほなみ」の作付も守っている。そうすることによって「ハルユタカ」の作付も関連して守ることになり、将来的にはそれぞれ的小麦の特性を出しながら一体的に製品化ができる。
杉野委員	私も江別工業団地という立場とは別に、菊水という立場としても江別小麦のブランドをしっかり守っていこうと考えているので、今後ともよろしくお願いします。
会長	麦に関しては農業振興計画策定の際にも議論になったが、「ハルユタカ」を推進しようという強い熱意はあったが、先に「ゆめちから」が有名になり、それを目当てに江別を訪れる方もいるため、麦の里の振興をし、幅広く見ていくということが農業振興計画に位置づけられていると記憶している。いずれにしても、麦の振興は今後も江別の主要農産物なので重要だと考えている。
神保委員	敷島製パンでは江別産小麦を使っていないという話を聞いたことがあるが、事実か。
企業立地課長	敷島製パンは主に「ゆめちから」という品種の小麦を使用している。販売しているすべてのパンに江別産が使われているとは言えないが、北海道産の小麦を使っているという言い方ができる。

会長	道央農協がかなり力を入れて、道央農協管内の小麦を使用しているというアピールをかなりしている。そのため、旧江別農協、野幌農協は江別市内であるため、エリアの中に含まれているというのが実態。実際使われている量について、全部かは分からないが、それほど多くないのは事実。道央農協管内の小麦はかなり使われている。ただ、江別は小麦として売っており、江別の工場で作っているということもPRしていることから、江別にいらっしゃる方もいるため、「ゆめちから」を蔑ろにはできない。麦全体として売っていくのが、江別市にとって観光客に対する得策ではないかという意見を前回の農業振興計画策定時に発言した経緯はある。
石澤委員	「食」と「農」の豊かさ発見実践事業について、小・中学生を対象とした食育事業を実施するとのことだが、幼稚園児を対象にした事業を実施する予定はないのか。
農業振興課長	食育推進協議会が幼稚園児等を対象にした食育事業を様々な分野と連携しながら実施している。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
杉野委員	小麦に係る生産者や事業者が江別に進出する際、行政として今までやってきたことの歴史背景や思いをしっかり伝えるべきだと思う。
農業振興課長	貴重な意見として承る。
会長	江別は独自に小麦、パン作りを振興している。地域おこし協力隊の方がパンのイベントをやっている。あれは江別産小麦を使用している。こういった取組みも大きくなり、江別産小麦を売り出す場所が設けられれば良いと思う。ゆめちからテラスが江別産小麦をあまり使用していなく、本来であれば江別産小麦を使うのがベストだが、パスコの事情でそうしていないと思う。ただし、これにより「小麦と言えば江別」と評価してくださる市外の方々がたくさん訪れるようになったのは事実だ。この波を見逃すわけにはいかないと思う。江別も独自に江別産小麦を使用し、それを元にした製品を提供する機会やイベントをたくさん設けていただきたい。江別の農業者の思いにもつながる。検討していただきたい。
会長	ほかに、ご質問、ご意見はございませんか。
小走委員	都市と農村の交流センター管理運営事業について、具体的な内容を伺いたい。また、都市と農村の交流事業とは関連性があるのか。
農業振興課長	都市と農村の交流センターの指定管理者に対し、管理委託料として2200万円ほど支出している。当施設は、都市と農村交流事業や、食育事業と非常に関連がある。例えば、バスツアーを実施した際は、そこで育てた地元産ブロッコリーを畑で収穫し、それを調理してピザにして食べてもらった。こうした、食育事業、都市と農村交流事業などのイベント時には、必ずここを通るよう計画して実施している。また、自主事業として、地域の農業者と都市部の住民が交流ができるようなイベントや、農家のお母さんたちが冬場に当施設のテストキッチンで加工品を作り、当施設のホール等で加工品フェアを開催している。
会長	農業振興は観光との連携が非常に重要だと感じている。前回の委員会で、煉瓦もち以外にも、江別産小麦を原料としたレンガシフォンケーキを商品化したらどうかと提案した。そうした形で江別の農産物を使用した食べ物が売れる機会を設けていただきたい。また、最近インスタ映えするような料理は器も重要なポイントになっている。江別市ではやきもの市を実施し、その受賞作品をセラミックアートセンターに展示する取り組みをしていることから、その受賞作品を使って、江別の料理を提供する機会を設けたり、飲食店に受賞者が作った食器を提供し、やきもの市と同時に農業産品も一緒に売り出す等のタイアップが非常に重要である。検討していただきたい。
会長	ほかに、ご質問・ご意見はございませんか。 続きまして、企業立地課の取り組みにつきまして、説明願います。

企業立地課長	※企業立地課主要事業について説明（資料7～8ページ）
会長	「外国人技能実習生等の地域共生支援事業」（資料8ページ上段）とあるが、この事業は従来の技能実習制度と今年から始まった特定技能制度の両方を推進していくという意味か。
企業立地課長	お見込のとおり。
会長	「外国人技能実習生・特定技能」と記載した方が、実態に合致しているのではないかと。 「外国人技能実習生等の地域共生支援事業」という表現の仕方では、従来の制度のみを推進していくと受け取りかねない。表現の仕方をご検討願いたしたい。
企業立地課長	検討して参る。
和田委員	実習生が地域の一員として快適に過ごすための支援（資料8ページ上段）とは、具体的にはどのような支援か。
企業立地課長	具体的には、江別国際センターの日本語教師から生活に必要な日本語を学ぶことができ、また、その中で日本の交通ルールや、社会ルールなどを学ぶ機会の支援を行っている。
杉野委員	江別工業団地協同組合は今年で設立45年目となり、5年に一度の「工業祭」の年でもある。私どもは地域に開かれた工業団地を目指しているため、今まで以上に行政と連携していきたいという想いがある。例えば、市が発行している冊子などで、工業団地の活動紹介の記事を掲載してもらいたいと考えている。現在誘致を進めているエリアと、誘致が完了したエリアが今後地域の中で活動していくためにも市には協力いただきたい。
企業立地課長	企業立地課という課名は、他市町村では企業誘致という名称になっているところもある。立地と言う呼び名は「市内に既に立地いただいている企業様のフォローもさせていただく」という想いで名づけられており、そのような想いを肝に銘じながら、ただいまのご意見も承りたい。
岸本委員	創業スタートアップ支援事業については、商工労働課の働きたい女性のための就職支援事業、企画課の大学連携などと、足並みをそろえて支援を行うと更に実りのある事業になると思う。
企業立地課長	この事業で行われる人材育成とは、独立希望の方のみならず、今後企業の中で必要なIT人材等を輩出するための事業でもあるため、ご意見があったように他課と連携していきたい。
小走委員	創業スタートアップ支援事業は、既に連携している事業者何社かに対し支援しているということか。人材育成では、具体的に市として何らかの категорияの新しいスタートアップを想定して動いているのか。
企業立地課長	市と連携している事業者は現在1社ある。支援内容については、創業支援事業計画の中にその1社を盛り込み、国の認定後、市が支援を行っている。また、人材育成については、これからの時代に必要なプログラミング技術、HP作成技術、3Dプリンターを使用したモノ作りや起業相談などを考えている。
会長	工場敷地内の直売所のように、江別産の農産物を使い、製造したその場で販売することは可能か。
企業立地課長	第一義的に企業の皆さまがお考えになると思うが、市としては企業に対し様々な活動を紹介し、繋ぐ役割があると考えられる。そのため、今この場で可能性がないということはいえない。

会長	お客さんが来ているという状況であるので、検討いただきたい。
杉野委員	工業団地という中で物販の店舗を構えられるかという点、工業用地としての条件がある。ただ、第1工業団地のセイコーマートのように、工業団地の理事会で決められることもある。
会長	多くの人が江別に訪れているという状況のため、江別産の農産物を売る良い機会にもなり、江別の名前を売る良い機会にもなるため、検討いただきたい。
会長	続きまして、総合特区推進担当の取り組みにつきまして、説明願います。
総合特区推進担当 参事	※総合特区推進担当主要事業について説明（資料9～10ページ）
会長	ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等ございますか。
杉野委員	機能的食品開発支援事業で6,500千円の支出があるが、ヘルシーDo等の当事業関連商品の売り上げは把握しているか。
総合特区推進担当 参事	具体的な数字はおさえていない。北海道にも確認を取ったが、道においても金額はおさえていない。ただ、こういった市内の企業の取り組みを促すため、また認定された企業の販路拡大を少しでも支援するためにも、市民の方などにPRしていくのかということが、非常に重要であると考えている。
杉野委員	機能的食品開発支援事業で開発した商品の、売上げ推移、消費者の声などがあれば、他の企業も参加しやすいのではないかと。
総合特区推進担当 参事	その通りである。トクホと機能的食品については、その効果等をきちんと商品等に表示できるというメリットはあるのだが、北海道のヘルシーDoについては、商品に具体的な表示ができないという問題がある。このことについても道に改善できないか引き続き呼びかけていきたいと考えている。
杉野委員	フード特区のエリアが北海道では、江別、札幌、函館、帯広と分かれているが、江別と他のエリアとではフード特区構想の活用という面で比較するとどのような違いがあるか。
総合特区推進担当 参事	制度を活用する場合、内閣府に申請するのだが、これまで約70件ほど申請があった。その中で、国から認められたのが約25件ある。その25件もほとんどが十勝管内の、いわゆる農業の関係や農機具の関係である。農業関係、食に関しては規制緩和を訴え易いのか、江別・札幌・函館エリアに比べると、やはり十勝の農業の部分が多く措置を受けているという実績がある。
杉野委員	北海道でこの3つのエリアが連携してなにかをしたという事例はあるのか。
総合特区推進担当 参事	3年ほど前から4市と道との連携事業として予算措置がとられている。主だった活動としては海外でのプロモーションなどで、道などと一体となって事業を実施しているという実績はある。
副会長	プロモーションの展開ということで、加工業者の方が江別の食材を求めても、道央農協のような広域農協だとある特定のブランドだけ扱うということは難しいのではないかと。

農業振興課長	J A道央は4市に跨る広域な農協のため、なかなか江別産のみを分けて、出せない面もあるのではと思う。しかし、直売所に出すようなものであれば、江別市で収穫されたものと明確になると考えられる。
会長	やはり生産者に依頼し直売を推進していくことが良いのではと思う。
和田委員	シンガポールや都内のレストランで計5回開催されているようだが、効果はあるのか。
総合特区推進担当 参事	シンガポールでフェアの物販後に商談会を実施しており、現地のバイヤーやレストランで仕入れを担当している方などと名刺交換をし、その後実際にサンプル品を送った実績などがある。また銀座にあるブラスリーポール・ボキューズという店舗が直接野菜を市内農家から納入することになったという実績が見られる。
会長	先程話題になったヘルシーDoの認定食材は全て江別産の農産物が使用されているのか。
総合特区推進担当 参事	全てではない。江別の市内企業がということである。しかし、ものによっては江別のブロッコリーや大豆が一部利用されている例もある。
会長	江別産のものを使用しているのであれば、もっとPRしてもらえる企業に協力を求めるというのが、江別市の振興に繋がるのではと感じた。
会長	最後に、全体を通してのご意見はございませんか。
会長	それでは、事務局の方からご説明があればよろしく願いいたします。
商工労働課長	経済審議会の今後の予定について、お知らせする。 今年度は計画等の策定の予定がないため、今回のみの開催となっている。
経済部長	非常に参考になるご意見がございまして、市では気が付かない点に関してのご意見や、江別産というブランドに着目されたご提案もございました。こういった点につきましては、今後前向きに捉え、なるべく実現に繋げていけるように我々も努力していきたいと思っております。えぞ但馬牛は数が少なく、かつ元牛の形で神戸などに送られて精肉して売られると、なかなか地元で肉として食べる機会がないものもございまして。えぞ但馬牛に限らず、そういったものもなるべく市民の皆様のお口に届くよう、これからは努力していきたいと思っております。本日は様々な業種の方にお集まりいただき、ご意見を頂戴いたしましたので、前向きに検討していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。
会長	閉会のことば